

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2018年12月26日

事業所名：

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・広い園庭はないが、公園へ出かけたり、部屋を互いに利用するなど、センター内の空間を活かす工夫をしている。 ・時間設定や活動内容に応じた部屋割り、空間配置の変化など、利用者の人数や活動に応じて工夫している。	はい(98)・どちらとも(11)・いいえ(0)わからない(0) ・おもちゃがたくさんあり、遊べる場所も広い。 ・人数が増え、集まりの活動時の場所が狭く感じる。 ・背臥位(寝た状態)で過ごす子どもにはスペースが狭い。	・引き続き、保育内容に応じた空間の作り方に工夫を重ね、子ども達がのびのびと活動ができるように努める。 ・スタッフが他の活動や他の空間での遊びに誘いかけることで、状況に応じたスペースの確保を心掛ける。
	2 職員の適切な配置	・毎年利用する子どもたちのニーズに合わせてクラス編成、人数配置・担任などを考えている。 ・基準内の適正な配置を実施している。	はい(85)・どちらとも(13)・いいえ(2)わからない(5) ・思ったより少なく感じる。 ・様々な職種のスタッフを増やしてほしい。	・引き続き、子ども達のニーズや特性に合わせた職員配置やクラス編成を検討し、様々な職種のスタッフが連携してよりきめ細やかな療育が提供できるよう努める。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・センター新設(平成28年4月)時に、バリアフリー化など、利用者に配慮した設備整備を検討し、設置している。 ・個々の子どものニーズや特性に合わせた対応を心掛け、クラス配置や環境を整えている。 ・毎月定期的に安全点検を実施し、整備を行っている。	はい(92)・どちらとも(9)・いいえ(1)わからない(7) ①センター内での移動時に上履き/外履きの変更が大変。 ②トイレに子どもを安全に座らせて待たせるシートが欲しい。 ③手洗いの蛇口を、子どもを介助しながらでも利用しやすいものにしてほしい。	①上履きで移動できる範囲を増やし、フロア間(3階-4階)の移動時の負担を軽減した。 ②③保護者から声をかけていただけの関係を作り、対応をしていく。また、介助の方法と一緒に検討していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・センター全体で子どもに合わせた環境整備に努めている。 ・トイレの清掃や消毒を徹底し、感染予防に努めている。 ・歩行者や座位保持椅子などの器具収納スペースが少ないため、廊下に置いている状況がある。	はい(103)・どちらとも(5)・いいえ(1)わからない(0) ・部屋はとても綺麗で清潔です。 ・トイレなど、子どもの高さに合わせてあり、使いやすい。 ・トイレに子どもが裸足で入っている。	引き続き、環境整備、衛生面等に配慮していく。トイレに素足で入った場合は引き続き、足ふきマットで拭くことを促すなど、個別に対応していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員会議・保育運営会議の実施や、年度毎に事業計画及び事業報告書の作成などを実施し、職員間での共通理解を図っている。		引き続き、実施していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		他機関のモデルなどを参考にしながら、実施の有無や方法についてを検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・センター内で定期的に職員研修を実施。 ・外部研修や他機関への見学・部会への出席。 ・その他の外部研修案内を職員全体に周知し、自主的に参加できるよう情報提供を行っている。		引き続き、実施していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・保護者の想いを聞き取り、子どもの姿を捉えることで、子どもが求める願いを目標に作成している。 ・様々な職種の意見を反映し、スタッフ間で共通理解を図るため、個別支援計画会議を実施して作成している。	はい(99)・どちらとも(4)・いいえ(1)わからない(5) 計画表を見たことがない。(利用開始直後にアンケートを実施した利用者の回答) ・子どもの特性を理解し計画を立てられている。	引き続き、実施していく。契約時に使用している書式を提示し、計画について丁寧に説明していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの特性に合わせた療育を提供できるよう、集団の規模や目的や課題の違う様々な保育形態を実施している。		引き続き、実施していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	保護者とも話し合い、子どもにとって目標にしやすい項目を計画に入れ具体的な手立てを記入している。	はい(90)・どちらとも(8)・いいえ(1)わからない(10)	引き続き、実施していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 （続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画を盛り込んだ毎日の遊びや生活が楽しめるように保育内容を工夫している。	はい(89)・どちらとも(9)・いいえ(1)わからない(10)	引き続き、実施していく。 職員間で意見交換をしながら専門性を高め、より楽しい療育が提供できるよう努める。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	・年度当初には、年間行事を立てて実行している。 ・多職種と連携会議や療育検討会議などを実施している。 ・保育リーダーを交替で行い、いろいろな保育経験を積めるように考えている。 ・前日または当日、事前に役割分担などの打ち合わせを心がけている。		引き続き、実施していく。 職員間で意見交換をしながら専門性を高め、より楽しい療育が提供できるよう努める。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・療育時間外でも電話や来所の相談に対応している。 ・幼稚園などと並行して利用している利用児の長期休暇中の利用を柔軟に対応している。 ・きょうだいも夏休みの期間でも、保護者同伴の療育が提供できるよう、きょうだい保育を実施している。		引き続き、実施していく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・週案を立て随時カンファを行い、活動内容を工夫している。 ・保育内容が充実するよう担任間で話し合い保育士としてのスキルアップを図ったり、各種様々な研修会の参加で知識を高め保育のマンネリ化をなくす努力をしている。	はい(186)・どちらとも(11)・いいえ(1)わからない(10) ・いろいろな体験をさせてくれるので、こどもがいろんな物に興味を持った。 ・散歩など外での活動が減ったと感じる。	引き続き、職員間で意見を出し合いながら知識を高め、活動内容の工夫をし、楽しい療育を提供できるよう努める。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・毎日朝礼で当日の利用予定のこどもの情報共有を行い、保育内容や人員配置の確認・保育用品の準備・食事介助の確認などを行っている。		引き続き、実施していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・療育終了後に実施。その日のエピソードなどをデイリーに書き込み、次回の支援に活かせるよう職員間で情報を共有できる話し合いの時間を大切にしている。		引き続き、実施していく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	一人ひとりのデイリー(日誌)の記入。 ・延長保育の記録を毎回記入 ・一つ一つの行事に対する反省会を行う。 ・定例会議(療育検討会議等)での情報共有		・わかりやすく効率的に記録できるよう、書式などを再検討していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1度見直しを行っている。 保護者との面談で、こどもの様子や変化を確認したり、保護者の思いを聞き取り、スタッフ間で検討会議を実施し、計画の見直しを行っている。		引き続き、実施していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	・通所部門の管理責任者や各クラス(グループ)リーダー、担当などが必要に応じて、相談部門との会議や相談員の聞き取りを行い、情報共有を行っている。		必要に応じて実施していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・センター内診療所のスタッフと連携し、療育を実施している。 ・就学時には、センターへの見学や書面による引継ぎ、保育所等訪問支援事業等を実施している。 ・並行して利用している他の事業所からの見学等により、必要に応じて連携している。		引き続き、実施していく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・センター内診療所と常に連携し、療育を実施している。 ・相談員やセンター内診療所を通して、主治医等と連携している。 ・緊急時には市内や近隣の病院との連絡体制をとっている。		引き続き、実施していく。 センターの役割や事業内容などを近隣の医療施設に周知し、より適切な連携体制が取れるよう努める。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	①引継ぎ書等の書面を用いた引継ぎの実施、②保育所等訪問支援事業の実施、③移行先の施設の事前の見学による引継ぎなどを必要に応じて実施、情報共有をしている。		引き続き、実施していく。 利用者のニーズに合わせて、より丁寧な情報提供や連携に努める。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、			
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	他機関の実施する研修への参加やケースを通じた連携を行っている。		引き続き、実施していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・つつじ利用の5歳児については、10月から居住地区の幼稚園で地域体験の場を設けている。 ・きぼう利用児は、年2回地域体験保育を実施している。 ・地域のおそび場の紹介をし、地域との交流ができるように利用を促している。	はい(13)・どちらとも(21)・いいえ(25)わからない(48) ・まだ参加していないのでわからない。 ・機会はあるが、回数を増やしたり、行事に参加できるとよい。	引き続き、実施していく。 利用者のニーズや年齢に合わせて情報提供できるよう努める。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	見学等を随時受け入れている。		必要に応じて対応していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用開始時(契約時)に説明している。個々に応じて支援内容について懇談を実施している。随時手紙で知らせたり、相談に応じられる旨を案内している。	はい(104)・どちらとも(5)・いいえ(0)わからない(0)	引き続き、実施していく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	個別の懇談の時間を設け計画を説明したり、保護者全体懇談会などで療育方針などの説明を行っている。	はい(103)・どちらとも(1)・いいえ(3)わからない(1)	引き続き、実施していく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	・親子通所の療育を実施し、療育の中で保護者との情報共有や育児支援を行っている。 ・保護者教室などを実施し、育児に必要な情報の提供、福祉制度について、先輩保護者の話などを実施し保護者支援を実施している。	はい(63)・どちらとも(12)・いいえ(10)わからない(21)	引き続き、療育の中でより保護者とのコミュニケーションを図り、取り組んでいく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・親子通所の療育を実施し、療育の中で保護者との情報共有や育児支援を行っている。 ・単独通所の利用児は、連絡ノートのやりとりを実施。親子通所の機会を活かし、子どもの姿をより深く伝える。	はい(98)・どちらとも(7)・いいえ(3)わからない(1)	引き続き、実施していく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	・懇談や、療育時間内に保護者とコミュニケーションを取り、共有している。 ・多職種間での話し合いを持ち情報共有している。また、必要に応じて児童精神科相談を案内し、より専門的なアドバイスを受ける機会を提供している。	はい(93)・どちらとも(7)・いいえ(4)わからない(4) ・とても親身になってくれるので助かる。 ・面接はまだないが、保育の中で会話等はある。	引き続き、実施していく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・保護者会、父親会の活動を通して保護者間の連携が取りやすい機会を設けている(クラスにより実施状況が異なる) ・療育内で保護者との分離保育や保護者教室を実施し、保護者同士の交流や意見交換の機会を設けている。	はい(69)・どちらとも(9)・いいえ(5)わからない(23) ・まだ参加したことがない。あるのかどうかわからない。	クラスや通所の形態に合わせ、保護者からの要望も取り入れながら、実施していく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・苦情対応について、契約時に説明している。 ・苦情や要望が上がった際には、迅速に対応するよう努めている。また職員にも周知徹底し対応できるよう心掛けている。	はい(60)・どちらとも(6)・いいえ(0)わからない(41) ・そういう場面にまだ遭遇していないのでわからない。	引き続き、実施していく。 必要に応じて個別に対応していく。 保護者との話し合いによって改善点が見つけられるよう努力する。保護者と連携できる体制や保護者とのより良い関係づくりに努める。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	個別対応を心掛けている。 室内に情報の掲示をしたりして、伝達できるようにしている。	はい(95)・どちらとも(8)・いいえ(0)わからない(5)	引き続き、実施していく。 必要に応じて個別に対応していく。 保護者と話をする機会を持つように心掛ける。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・クラス日より等を月1回配布し、次月の利用計画や行事の案内など、必要な情報提供を行っている。 ・年間行事の写真を掲示している(クラスによる) ・緊急時には、連絡網を使って保護者と連絡がとれる態勢も整えている(クラスによる)。	はい(103)・どちらとも(5)・いいえ(1)わからない(0) ・ホームページには詳しく記載されていない。 ・通信を楽しみにしている。	引き続き、実施していく。 ホームページの充実や更新に努める。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	・個人情報には職員全員が秘密厳守を心がけ、書類作成、情報公開に際しても最新の注意を払うよう心掛けている。 ・市の職員全体向け情報セキュリティ研修等を毎年受けている。	はい(90)・どちらとも(4)・いいえ(1)わからない(13)	引き続き、職員間で周知徹底していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路を掲示している。 ・定期的な避難訓練の実施。親子通所を利用している場合は、保護者も参加しており、その場で共通理解している。 ・職員間への情報周知徹底は行われているが、保護者に対してすべてのマニュアル開示がまだされていない。また、今後の大規模災害を予想して見直していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> はい(49)・どちらとも(20)・いいえ(10)わからない(27) ・緊急時の連絡方法が電話しかなく、連絡が取れるか不安。休所の基準や緊急時のマニュアルが必要。 	引き続き、職員間で周知徹底していくとともに、様々な災害を想定しマニュアルの見直し等も検討していく。保護者への周知や開示方法についても検討していく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・センター全体で年2回避難訓練を実施。 ・単独通所のクラスでは、毎月1回あらゆる災害を想定して避難訓練を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> はい(54)・どちらとも(6)・いいえ(10)わからない(36) ・まだ訓練に参加していない。いつ行っているのか知らない。 ・放送が聞こえにくかった。 ・地震・火災などいろんなパターンでするほうが良い。みんなに周知したほうが良い。 	引き続き、実施していく。 週1回通所の利用者にも対応できるよう、通所の形態によって柔軟に避難訓練の実施方法や回数を設定する。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	毎年人権研修を受けている。専門的な研修会があれば参加している。		引き続き、実施していく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	別紙で書類を作成・説明し、同意を得ている。		引き続き、実施していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児のトレイと名札を用意し、声出し確認をしている。アレルギー児が下膳をする場所を別に設けたり、全員が足の裏を拭いてから退室する・エプロンについている食べこぼしを払い落として退室するようにしている。また、エビペンの使い方の研修を全職員に実施した。 ・給食開始時に看護師より食事内容の聞き取り、主治医の情報や診断書を元に給食を提供している。 		引き続き、個々への対応、職員間での情報共有を図り、実施していく。 医師や看護師と相談ながら、職種を問わず誰でも対応できるマニュアルの作成を検討している。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内リスク会議を実施している。市内保育施設のリスク会議に出席し、外部のリスク報告も共有している。 ・リスク報告書の記入、報告を通し、情報共有を図っている。 ・前月の事例や次月の予測できる事例を職員会議で確認し、職員一人ひとりが意識して未然に防げるよう努めている。 		引き続き、実施していく。